



【2017-06-07】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『日本酒と巡り会う旅』

長野修二

日本酒と巡り会う旅

日本酒の旅は、身近にある酒店で結構できるものです。

あるいは、少し遠出でもすれば、その地の酒店では地元で造られる地酒に巡り会えるでしょう

日本酒の旅は、簡単でしかも多くの地を旅できます。

現在では、多くの蔵元がホームページを開設していますからそれを読んでいくだけで、その土地の姿がわかるようになります。

もっとも、その地を訪ねなければ身体感覚としての土地を体得することはできませんが、こればかりは時間とお金が必要になります。

これができる人は、多くの土地を訪ねて直接その土地の日本酒と巡り会うのが一番でしょうか。

そもいかない私のような人間は、身近な酒店で出会ったいろいろな銘柄からその日本酒が生まれた土地を知ることになります。

気が付くことは、多くの土地で日本酒が造られていることです。

私のような駆け出しでは、そのほんの一部しか出会えてないでしょう。

関東地方に住んでいるからでしょうか、身近な酒店で出会える日本酒の多くは、とくに地酒は、大体関西以東のものが多いように感じます。

関西以西の日本酒にはあまり出会えません。



「不動」は、千葉の成田山新勝寺参道に本店がある [鍋店株式会社](#) が造っています。

地酒の場合、その多くは小さな蔵ですから遠い地域まで運ぶだけの量を造っておらず、多くは地元で消費されてしまうようです。

こうなると実際に足を運ぶか、あるいはネット販売などを通して購入するしかないのでしょうか。

私は、そもそも直接酒店などで偶然出会った日本酒を購入するタイプで、

ネットショップで日本酒を購入しませんから、残念ですが、出会えない銘柄には縁がないということになりそうです。



「純美人」は、茨城の[野村醸造株式会社](#)が造っています。

実際の旅も、元々九州の出身であるためか、わざわざ九州を旅するよりは関東や東北、あるいは信州を訪ねることが多く、どうしても東日本中心に旅をすることになり、日本酒もその地で巡り会える銘柄になります。もともと、そうはいつでもこの地だけでも相当な銘柄がありますから死んでもたどり着く数ではないでしょう。なにごとに偶然を大切にするものとしては、そのときどきの縁ということになるのでしょうか。



「雪の茅舎」は、秋田の[株式会社齋彌酒造店](#)が造っています。

いずれは出会った日本酒の地を訪ねてみたいところも沢山生まれてきました。

おそらく蔵元を訪ねることはないでしょうが、やはりその土地に立って地元の景色をみることで、さらに美味しくその地の銘柄が飲めることを楽しみにしています。

日本は似たような風景ですが、やはりその土地にしてみるとその地の山、川、木々、草花など似たような景色の中にもその土地ならではの個

性があるものです。

その風景を自らの身体感覚に入れることで、その地の日本酒の味わいがさらに深まっていくのだと思っています。



「大七」は、福島の[大七酒造株式会社](#)が造っています。

土地とお米を感じることができる日本酒は、その造り手の多くが小さな蔵だけにその銘柄数も多く、味わいとともにも多くの土地を知ることができる機会でもあります。

週に2～3日しか飲まない私のような人間でも多くの銘柄とその地を知ることができました。

なかには実際に旅をしてその地を訪ねることでその景色とともに味わった銘柄もあります。

さらにその土地で買った銘柄を、その土地の風景を思い出しながら飲むことでより美味しく味わうことができます。



「忠愛」は、栃木の[株式会社富川酒造店](#)で造っています。



「信濃鶴」は、長野の[酒造株式会社長生社](#)が造っています。
[専務のブログ](#)も楽しい！



「幻の瀧」は、富山の[皇国晴酒造株式会社](#)が造っています。

その土地の水、土、気候によって育まれた日本酒には、その土地の魂が
込められているのかもわかりません。

毎週手軽にできる日本酒の旅は、改めて日本を知るよい機会になっ
てい
るような気がします。

その他の旅は、[こちら](#)からどうぞ！